

あるものを活かす！ないものを数えない 昔は村だった小さな地区の取り組み

長野市の北部に位置する鬼無里地区は、市内でも1番の高い高齢化率の地区です。

鬼無里は未来の日本！地域資源が少ない中でも、地域の力を結集してできることを考え、実現しています。

あるものを活かす!!

ないものを数えない

昔は村だった

小さな地区の取り組み



①鬼無里について

・平成17年に長野市と合併
・長野市の北部に位置する中山間地
・市内で1位2位を争う高齢化地区
《公共施設》長野市役所支所、公民館、小中学校(同棟・一貫教育)1校、保育園1園、駐在、分署
《その他》コンビニエンスストア0、商店数件、温浴施設1つ(冷泉)、宿泊施設数件
【人口】男604 女700 計1,304人 635戸 65歳以上 764人 R1.5.1現在



②鬼無里の現状

・人口は減ってしまったけど、0じゃない
・遠い先の未来ではなく、今何とかしなければと感じている
・住民自治協議会という組織がある

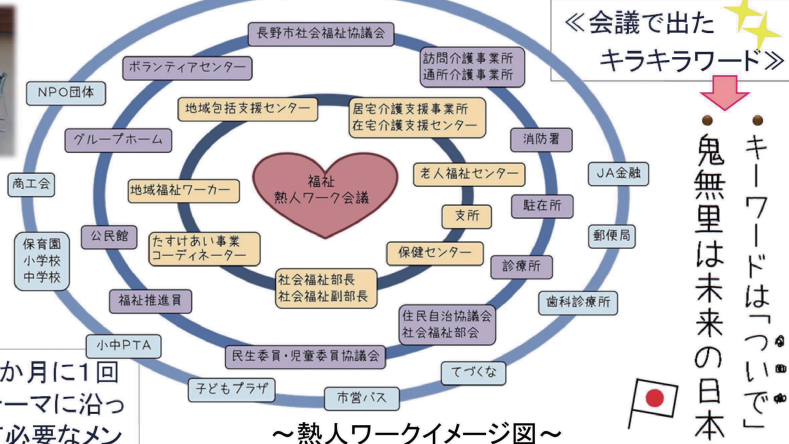
③協議体を作る?!... あっ!もともとある「熟人ワーク」を協議体にしよう!

※熱い人=ねっと で、ネットワークと読みます。福祉関係者で情報交換をするために発足しました。



《現在のメンバー》

保健師、支所職員、ケアマネ、在介、地域包括支援センター、社協、ボランティアセンター、公民館、駐在、消防署分署、JA(金融)、郵便局、診療所、NPO団体、奉仕団体、鬼無里の湯、学識経験者、民生委員、住民自治協議会役員



2か月に1回
テーマに沿って必要なメンバーで集合

～熟人ワークイメージ図～

※中心から外に向かってネットワークを広げていく感じ

《会議で出た
キラキラワード》

●キーワードは「ついで」
●鬼無里は未来の日本

④熟人ワークから生まれた取り組み「鬼無里の湯ふれあいサロン」

《きっかけ》

市で行っていたミニデイサービスが終了したため、バスがあって、お昼を食べられる唯一の温浴施設にお願いして開催!



かるた大会

月に2回地区毎(3地区に分けて)開催しています。農繁期は人数が少ない時もありますが、皆さん楽しみにしてくれています。



中学生の折り紙教室

● その他、熟人ワークから始まった活動

・きなサロン ・やすらぎサロン ・お出かけツアーズ ・鬼無里男の会

⑤今後の展望

・役員のなり手不足を嘆く声が「元気な限り担い手ている」と言われるような自治体になる
・信州型コミュニティスクール「きなさの学び舎」と、みんなが望む形での連携

